



No. 597 附録

治安維持法犠牲者  
國家賠償要求同盟  
編集発行人 田中幹夫  
〒113-0034 東京都  
文京区湯島2-4-4  
平和と労働センター・全労連会館  
電話 03(5842)6461  
FAX 03(5842)6462  
E-mail chian@bz03.plala.or.jp  
額面 50円

兵庫版 No.481

治安維持法犠牲者  
國家賠償要求同盟  
兵庫県本部  
〒650-0022 神戸市  
中央区元町通6丁目6-12  
山本ビル 国民救援会内  
TEL(078)351-0677  
FAX(078)371-7376

中央常任理事会で (6月30日まで)

## 「会員拡大の特別期間」設定

2月15日の中央常任理事会で  
確立した運動スローガン

◆能登半島の被災者救援活動に政府  
は力を尽くせ。

◆自民党の巨額裏金問題は組織的犯  
罪。真相の徹底究明と企業・団体献  
金の即時禁止を実行せよ。

◆国連憲章違反のイスラエルによるパ  
レスチナ・ガザ地区でのジェノサイド  
(集団殺戮) を一刻も早くやめさせ  
よう。

◆“ふたたび戦争と暗黒政治許すな”

◆岸田政権は、「戦争国家づくり」、任  
期中の憲法改正を表明、断じて許し  
てはならない。

◆第4回全国大会めざし2万人会員の  
実現、支部をつくつて同盟活動を活  
性化しましょう。

## 県本部第42期

## 第6回幹事会報告

# 全国大会めざす 「特別期間」スタート（3月～6月）

1300人会員、署名1万5千筆を達成しよう

全国大会めざす

第6回幹事会は2月12日開催されました。3月からの「特別期間」で、各支部が会員に行動を呼びかけ、5月の「国会請願」への署名運動、6月の全国大会への会員拡大に、一人でも多くの会員の参加を勝ち取ろうと議論を深めました。現在署名は1691筆、会員現勢は1203人です。昨年8月の総会以後、新たに35人が入会しています。

【署名・会員拡大に全力を】  
2月の「月刊・不屈」に折込んだ署名用紙と「入会のしおり」を活用するよう、全会員に改めて呼びかけます。

2月26日支部代表者会議が開かれ、5支部から10名が参加しました。

会議では、5月15日の「国会要請行動」に支部代表を派遣し、地域から情勢を変えていく署名運動の推進、会員拡大をすすめています。

していきます。

## 【支部代表者会議】開催

### 5月15日の「国会請願行動」に 署名を積み上げ、支部代表を派遣しよう 支部目標を達成し、

### —1300人県同盟を実現しよう

支部活動を活発化させることが主な議題でした。また、支部で映画上映や史跡探訪、学習会などの行事を行いました。

長の濱本鶴男さんが、当時の時代、文学界の動向の中でのプロレタリア文学運動と多喜二の事跡などを紹介しました。

## 兵庫県

## 小林多喜二記念集会

兵庫時雄会長が行い、若手ミュージシャンの藤本匠さんが、エレキギターの独奏を披露しました。講演は「戦争とファシズムの時代 小林多喜二はどうたしかったか」をテーマに兵庫多喜二・百合子の会会長の濱本鶴男さんが、当時の時代、文学界の動向の中でのプロレタリア文学運動と多喜二の事跡などを紹介しました。

われます。会員の中からも昨年亡くなられた方々がおられます。合葬を成功させるための募金をお願いします。

## 【その他】

今後の運動を通じて、支部の強化をはかります。また、映画「わが青春つきるとも」の第3次上映を各地で企画し、支部活動前進に結合します。

## 【無名戦士合葬】

3月20日に無名戦士合葬が行

● 第7回幹事会は3月17日年7月28日（日）に行うことを確認しました。

（日）午後1時30分から県本部事務所・国民救援会会議室で開催します。

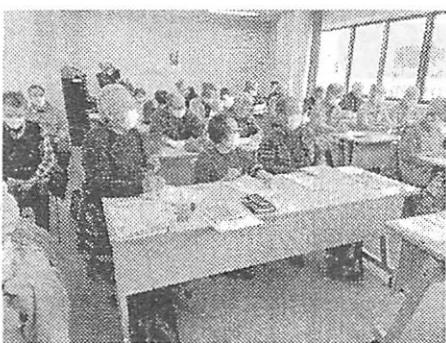
県同盟も実行委員会に参加する「小林多喜二記念集会」が2月25日神戸市内で開催され、70人以上が参加。開会あいさつを同盟県本部の築谷時雄会長が行い、若手ミュージシャンの藤本匠さんが、エレキギターの独奏を披露しました。講演は「戦争とファシズムの時代 小林多喜二はどうたしかったか」をテーマに兵庫多喜二・百合子の会会長の濱本鶴男さんが、当時の時代、文学界の動向の中でのプロレタリア文学運動と多喜二の事跡などを紹介しました。



淡路支部が学習講演会

## 淡路の農民運動—戦前の闘いを学ぶ

### 長尾有、近内金光の関わりも



講演に聞き入る参加者

大正デモクラシーが高揚した1920年代。20代の青年ながら淡路の農民運動を指導した長尾有（たもつ）と、長尾が信頼していた弁護士・近内金光の関わりを学ぼうと、2月25日、淡路市の「しづのおだまき館」で、国賠同盟の学習講演会が開かれました。

戦前の淡路の農民は、過酷な小作制度と、第一次大戦後の恐慌で困窮していましたが、長尾が参加しました。

片岡格淡路支部長のあいさつの後、講演に立った田中氏は「一度では日本一豊かな活動をした淡路の話を語れないのです、続けてやりましょう。その中で日本一の国賠同盟支部を淡路島に作りましょう！」と呼びかけました。

戦前、淡路では小作料が50

有は、1927年（昭和2）に、労農党から県會議員になり、翌年の第一回普通選挙による総選挙では、日農の顧問弁護士だった近内金光を兵庫2区から擁立し、ともに闘いました。2人は、淡路農民運動の先駆者でした。

国賠同盟県幹事の田中隆夫さんを講師に開かれた学習講演会には、同盟員を中心に、淡路在住者33名と神戸から1名が参加しました。

片岡格淡路支部長のあいさつの後、講演に立った田中氏は「一度では日本一豊かな活動をした淡路の話を語れないのです、続けてやりましょう。その中で日本一の国賠同盟支部を淡路島に作りましょう！」と呼びかけました。

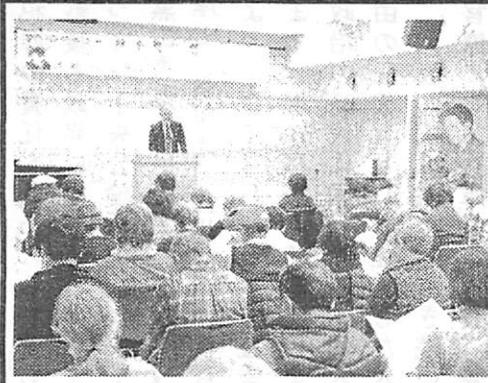
戦前、淡路では小作料が50

%以上、さらに裏作の麦にまで小作料が掛けられ、高すぎる年貢に、多くの農民が苦しんでいました。「耕作権を確立し、土地を農民に」という闘いが起き、鳥飼村（洲本市鳥飼）の小作争議をきっかけに、賀集村（南あわじ市賀集）の長尾有らが連絡を取り合い、農民組合の運動が開始されました。戦時色が濃くなるなかで、長尾有も3・15事件で投獄されるなど、生々しく社絶だった淡路の農民運動の様子が語られました。参加者のほとんどは戦後世代なので、こうしたすさまじい戦前の闘いに、息を飲んで聞き入っています。

同盟淡路支部を結成した矢吹会長と共に1978年7月に農民運動家懇談会を主催した高倍昭治先生から戦前の農民運動参加者を聞き取ったときの話も発言されました。学習講演会は、続編が計画できればと考えています。

会場で、新会員が一名増えました。

（淡路支部一堀井裕右）



3月3日、伊丹市内で第20回阪神北・小林多喜二祭が開かれ約100人が参加しました。

集会は第一部の「朗誦と歌でつづる多喜二とその時代」では「治安維持法犠牲者への鎮魂歌」などを発表してきた音楽家のケイ・シユガーさんが出演。第二部は「日本共産党の百年と小林多喜二」をテーマに日本民主主義文学同盟の北村隆志さんが講演しました。集会では国賀署名22筆が寄せられました。

阪神北小林多喜二祭

3月3日、伊丹市内で第20回阪神北・小林多喜二祭が開かれ約100人が参加しました。

## あちこちの「伊藤千代子」

# 桟敷よし子

(ジョセフイン)

(19)

最終回

田中隆夫

依田壮介との東灘区での結婚生活は長く続かなかった。壮介は、1973年11月13日病に倒れた。『不屈』昨年二月号、北嶋佳寿子さんの便りにあるように、桟敷は東灘を去り、淡路診療所の嘱託勤務、診療所の老人会の世話役を務め、七五年には、この連載の元ともなる自伝『ある保健婦の昭和史』を出版。77年に、丸山博(阪大教授)の白浜・桜の園協同ホームで暮らし、五年ほどボランティア保健婦として過ごす。この時、国賠同盟和歌山支部結成世話人、県副支部長となつた。89年に、八尾市立老人ホームに入居。同盟大阪本部顧問就任。1992年2月10日八尾にて死去。89才であつた。

★新連載予告!  
来月号から

## 『権力犯罪一八鹿高校事件—50年後の真実』

治安維持法と国賠同盟だからこそできる事件の深層に新連載で迫ります。

一九七四年十一月の八鹿高校事件から一年二か月後、時のロツキード事件に関わり『兵庫民報』主張は、「県政界と黒い前歴の政治家」と題して児玉謙志夫などA級戦犯容疑者と結びつく「黒い政治風土」と共に、自民党現役政治家に戦前の特別警察(どっこく)などで民主主義の蹂躪の先頭に立ち国民を侵略戦争に追い立てた戦争推進者たちが居座り、何の反省もなく公然と再登場している事実を明らかにした。

『兵庫民報』主張は——「そのトツプは現自民党参議院議員金井元彦氏です。金井氏は五年前、参院議員選挙に出馬するまでは二期連続で兵庫県知事の任についていたことは周知のところですが、戦争中の暗黒政治の中で内務省警保局検閲課長、情報局検閲課長として言論、報道機関の弾圧に『功績』をあげて、警保局保

安課長として特高警察の元締めをして、そ

の権力犯罪の責任を問われることもなく、戦後も政界に座を占めています。かつて『中央公論』の編集長であった黒田秀俊氏は『中央公論』『改造』の弾圧、廃刊は、金井検閲課長らの手によって企てられたことを証言しています。現知事坂井時忠氏もまた暗黒政治の時代に国民の基本的人権と自由の圧殺者として狂奔した人物です。』坂井氏は戦後も引き続いだ警察官僚として兵庫県本部長、警察庁警務局長、同官房長を歴任して民主主義に敵対してきました。』と明らかにしています。

これらの事実の上に立つて当時の金權・戦犯政治という共通の根源を持ち、日本型ファシズムの復活を図る危険な動きを『兵庫民報』は糾弾していました。こうした兵庫県政の進展中の一九七四年十一月二二日八鹿高校事件は起りました。

新連載は、二〇〇五年一月発刊の『兵庫民報』(ただし)氏の『告発! 戦後の反動潮流の源泉—特高官僚』の「兵庫県は特高官僚ぞろぞろ」の紹介から始めていきます。

**特高官僚**

戦後の  
反動潮流の源泉

柳河瀬精